

西伯小学校コミュニティ・スクール 第1回推進委員会を開催

西伯小学校は平成19年度から2年間、コミュニティ・スクール推進事業（文部科学省指定）に取り組むことになり、6月27日、第1回推進委員会が開催されました。

当日は、会見小学校地域協働学校運営協議会の岡田昌孫会長に、コミュニティ・スクールにつ



岡田会長の講演

いて講演をしていただきました。岡田会長の話の概要は次の通りです。

法勝寺小学校と郷土教育の歴史

戦後、優秀な者を都会に送り出し、故郷を捨ててしまう教育をしてきた。しかし、法勝寺小学校では郷土を大切にしている。近年、生活科教育をしていた。近年、生活科や総合的な学習が登場し、地域の学習や体験学習の大切さが再認識されてきた。

なぜコミュニティ・スクール

なのか

これまでの文部科学省を頂点とした全国画一の学習では、本物の学力が育たない。暮らしの中から課題を見つけ、学習したことを暮らしに生かしていくことが大切。そして、地域社会を担っていく子どもを育てなければいけない。そのためには、学校、家庭、地域社会がそれぞれ

役割分担をしなければいけないが、今は学校に全てが押し付けられている。

会見小学校での取り組みから

会見小学校では、先生達に学力向上に専念してもらおうような環境作りをしている。学校内のことは、支援活動をしてみてはじめて分かった。地域社会として、何を学校にしてあげることができると考えている。わが子のためには、よその子もよくならなければいけない。

まとめとして

成果として、大変子どもが喜んでおり、いきいきと学習に取り組んでいる。校区の人も、学校に関心をもつようになった。支援活動に参加した地域住民は子ども達から元気や生きがいをもたらしている。人の営みの中で、人が増え、そして地域が生まれ、学校を作り、先生を呼んでくる。そんな循環の中で、地域社会の願いを学校に反映させるのは当たり前である。

子どもにとって全町内みな教室、全町民みな教師である。

GTA（祖父母と先生の会） 大活躍中です

会見小学校地域協働学校には、GTAという組織があります。PTAの祖父母版で、現在会員は60名です。

花や野菜の苗植え、田植え、つるし柿づくり、そば打ちなどの指導、環境整備、下校時の見回り活動などに活躍しております。



苗植えを指導するGTAや地域住民

（注1）南部町では「コミュニティ・スクール」のことを「地域協働学校」と称しています。